

健康な食事研究会

◆健康な食事研究会全体

<p>1, 2 月</p>	<p>1) 2/4 第7回全体会議 (ILSI Japan 会議室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗報告会発表内容確認 ・進捗報告会フラッシュレポート (担当者分担済み) (「イルシー」誌 139 号・5 月中旬原稿締め切り) ・10 月「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュール確認 (「イルシー」誌 140 号・7 月末要旨原稿締め切り、 「イルシー」誌 141 号・11 月中旬フラッシュレポート原稿締め切り) <p>2) 2/21 健康な食事研究会進捗報告会 (日本橋公会堂) を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・113 名の参加登録 (17 名欠席) で 96 名の参加者であった。 ・メールでアンケートの結果、健康な食事研究会会員以外からの回答も得られ、今後の最終報告が期待されるという声が見られた。 ・健康な食事研究会各 WG リーダー3 名からの発表の後、次の 2 講演を行った。 講演 1 : 日本食パターンが心身の健康に及ぼす影響について 東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学専攻 公衆衛生学分野 教授 辻 一郎 講演 2 : 健康寿命延伸への取り組み メタボとフレイル 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事/ 国立健康・栄養研究所 所長 阿部 圭一 ・パネルディスカッションでは「健康な食事の要件」と「自然な社会定着の方法」についてディスカッションされた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 健康な食事の要件 健康の定義を決め、日本食スケールを、地中海食のように発酵調味料や調理法、食事法なども含めて項目を 10 個ぐらいに絞ることが要件として出された。 ② 自然な社会定着の方法 以下のような意見が出された。 <ul style="list-style-type: none"> ・食育 (ヘルスリテラシーの向上)、経済格差に起因する健康格差の是正 (給食の充実、イギリス減塩規制のような仕組みの必要性など) ・経済的弱者の中の健康人の研究や、日本食と非肥満の研究を行うことにより、提言を発信し、研究結果を社会に還元できるのではないか ・OECD のレビューにみられる日本の公衆衛生政策の特徴 (健診頼みの傾向が強い / 「健康日本 21」はポピュレーション戦略不足 / 災害弱者対策の強化が必要)
<p>3, 4 月</p>	<p>◇第 8 回全体会議は 6 月 5 日 15 時から 17 時を予定。 ◇2 月 21 日に行われた、健康な食事研究会進捗報告会のフラッシュレポート原稿 6 人分の原稿が集まり、安川理事長の冒頭文を依頼。139 号掲載予定。 ◇栄養とエイジング国際会議の発表内容に関して、フラッシュレポートの担当と要旨担当を決める。 ◇アドバイザーの先生方 (8 名) に 1 年間の委任状を 4 月 15 日付で送付。メール上</p>

	で事前に快諾頂き、承諾書を拝受した。
5, 6月	5月17日健康な食事研究会進捗報告会(2月21日)フラッシュレポート原稿終了し、「イルシー」誌139号に投稿完了した。 6月5日 健康な食事研究会全体会議： ① 各WGからの報告 ② WG1-3の有機的な連携に関する議論 ③ 「健康な食事」に関する共通概念についての議論。 第8回「栄養とエイジング」国際会議に向けて発表内容・要旨準備の確認をおこなった。
7, 8月	・健康な食事研究会進捗報告会投稿：「イルシー」誌139号にフラッシュ・レポートとして投稿。 ・「栄養とエイジング」国際会議フラッシュ・レポート内容の15名分担。当日スタッフとしての分担も快諾。
9, 10月	・10月1日2日に国連大学で300名を超える参加者で開催された第8回「栄養とエイジング」国際会議で、健康な食事研究会の活動の集大成を1日目の午後、3つのワーキンググループから以下のように発表した。 ① 健康な食事の定義に関する課題と問題提起 ② 健康を直接的に押し出すよりも消費者に間接的に健康を感じさせる表現のあることが中食の実態調査からわかったこと ③ 社会実装としての健康経営に関する調査報告から見えてきた、知らず知らずのうちに健康になる環境整備の必要性 質疑応答から関心の高いことがうかがえた。 ・企業スタッフとして15名が栄養とエイジング国際会議の当日運営にかかわり、「イルシー」141号に掲載予定のフラッシュ・レポートの作成の分担も行った。 ・10月25日第9回全体会議で参加メンバーへ国際会議を報告し、今後の方向性を議論した。12月上旬に「健康な食事研究会」の今後の活動に関して、第10回全体会議を行う予定。
11, 12月	・第8回「栄養とエイジング」国際会議開催後の活動として、健康な食事研究会が担当した講演について、フラッシュレポート用の原稿を事務局に提出(「イルシー」誌に掲載予定)。 ・健康な食事研究会の今後の方向性について、12月3日に参加企業の主なメンバーで議論を行うと共に、12月9日の第10回全体会議で再度議論した。これまでの健康な食事研究会は、ここで一度区切りをつけ終了。今後、方向性を明確化させる予定。

◆ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2月	・1/25 第13回勉強会 東大佐々木研で打ち合わせ(11名参加)。次に何をやるかのプレストを行った。日本食の定義が曖昧なため、「健康な日本食」は検証できなかった。 これを踏まえ健康な食事の概念構築のために、今後、次のアクションが考えられる。 ① 「健康な食事」を日本の食(文化含む)で定義する方法を検討する → 地中海食やDASH食の手法を学ぶことから。 ② 「健康」から「日本食」を定義できるか検証する → 議事メモに記載のあった寿命、死亡率、その他バイオマーカーなどと食事・食品・栄養素の影響を検討する。 * 具体的手法は方向性が決まってから新メンバーで検討する。
-------	--

	<p>* 昨年の報告書に関しては「イルシー」誌 138 号掲載を目指し準備を進めていたが、編集担当者の指示により参考文献の扱いの書き直しが必要になり、139 号掲載（5 月中旬締め切り）に変更した。</p> <p>* 大崎サブリーダーの転勤により次のサブリーダーは具体的な方向性が決まってから選ぶ。</p> <p>* アドバイザー児林先生の東大退職に伴い、健康な食事研究会のアドバイザーも辞退された。</p>
3, 4 月	<p>◇WG1：4 月 16 日東大佐々木研究室で事務局会議。今後の方向性に関して、次回 6 月 5 日 13 時 15 分から 14 時 45 分のミーティングを ILSI Japan 会議室で行う予定。同日第 8 回健康な食事研究会全体会議後 17 時から情報交換会を実施する。</p> <p>・文献検索の結果レポートに関して、「イルシー」誌 139 号に投稿すべく改訂版を準備中。参考文献および評価文献の表現方法の見直し終了後。5 月半ばまでに全員回覧の上、提出する。</p>
5, 6 月	<p>5 月 31 日：2017-18 年の活動報告を「イルシー」誌 139 号に投稿完了した。</p> <p>6 月 5 日ミーティング：全体会議での発表内容を確認し、「健康な食事」「健康」の定義を明確にすること、WG1-3 の有機的なつながりに関して議論することを提案することにした。また、有機的なつながりの一例として、WG2, 3 の調査結果の科学的文献検索を WG1 が担当すると提案することにした。</p> <p>6 月 11 日：WG2 からの要望に応じ「栄養素の優先度と栄養バランスを充足するのに必要な時間」に関して、WG1 のリーダーの佐々木先生より文献を提供され、健康な食事研究会メンバー全員に共有した。</p>
7, 8 月	<p>イルシー誌 139 号に投稿した活動報告書の校正を実施。</p> <p>メール上でやり取りして、「栄養とエイジング」国際会議の要旨の英日とスライドを用意した。</p>
9, 10 月	<p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表準備。</p>
11, 12 月	<p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を完成させた。また、報告書を「イルシー」誌に投稿した。</p>

◆ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・2/14 日本生活協同組合連合会へのラウンドテーブルを行った。議事録は WG2 内で共有済み。 ・2/14 ミーティングを実施し、進捗報告会の発表内容の確認と、WG2 事務局スタッフとアカデミアの先生から、今年度の活動計画が紹介された。 ・外食産業ヒアリングの候補を挙げ、順次分担して調査する。 ・惣菜協会を介して紹介いただいた中食企業に対してアンケートをするべく準備を始めている。アンケート内容原案をグループ内でブラッシュアップしている。
3, 4 月	<p>◇WG2：惣菜協会会員各社にアンケート調査を実施するため質問内容案を作成。4 月 16 日の WG2 会議で確認の上、修正。今後、惣菜協会での内容確認、アンケート WEB サイト作成後、同協会から調査協力のメールを送付予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外食産業のインタビューを開始する（サブリーダーが外食関係のアドバイザーへヒアリングを実施済み） ・次回ミーティング 6 月 4 日 16 時から 17 時 30 分 ILSI Japan 会議室。

5, 6月	<p>5月8日：外食業界の調査を進める準備として該業界大手経営者へのヒアリングをサブリーダーが行った。まず簡単なアンケートをしてから個別訪問インタビューを行うこととした。</p> <p>5月31日：サブリーダーが日本惣菜協会を訪問してアンケート調査の依頼をし、同意を得た。</p> <p>6月4日：WG2 ミーティング：惣菜協会を訪問した際の報告をし、アンケートを開始することとした。また、外食業界に関するヒアリング内容を共有した。</p> <p>6月14日：日本惣菜協会会員企業様を対象とした Web アンケートを開始した。</p>
7, 8月	<p>◇7月11日 10-12時 WG2 拡大事務局会議：惣菜協会を通じて会員企業へアンケートを実施した。確認を行い、今後の進め方とデータ内容の表現方法を検討した。</p> <p>◇8月22日 15-17時 WG の全体ミーティング</p> <p>惣菜協会を通して行ったアンケート結果に関して、グラフなど整理して共有し、どのグラフを国際会議で紹介するかなど、調整した。最終的な報告先として、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。</p>
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。中食業界アンケート内容結果から発表すべきグラフの取捨選択。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。 ・10月30日ミーティングの実施。国際会議での発表内容の共有。「イルシー」誌143号に活動報告書掲載を目指すことで合意。
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・12月6日にミーティングを実施。「イルシー」誌143号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。

◆ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・1/23 ミーティング (ILSI Japan 会議室) <p>これまでのヒアリングで得られた知見(9件)を共有(共通する成功・失敗要因の抽出)し、本年の活動内容について議論。その中では、データマイニング手法での解析結果も紹介された。進捗報告会の発表内容の確認を行い、2019年度の活動計画案に関して、地域や学校をターゲットにした調査も行うことを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営優良企業のヒアリングは継続して行う(3月1社訪問予定)。
3, 4月	<p>◇WG3：3月26日健康経営優良企業であるA株式会社を訪問。PDCAをうまく回す方法論や環境を整える個別化の考え方など、参考になる多くの知見を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政等への追加ヒアリングや結果の集約等、今後の進め方に関して、メールベースで意見交換を実施中。
5, 6月	<p>6月5日：第8回「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュールと分担の確認をした。市町村・小中学校・大学などのヒアリングに関して打合せを行い、7月の活動スケジュールを決めた(7月中に、大学1か所、地方自治体1か所のヒアリングを行うとともに、栄養教育・公衆衛生の専門家との勉強会を実施予定)。</p>
7, 8月	<p>◇7月12日 14-15時 30分 お茶の水女子大学 赤松先生「適切な食選択を促す要因」について勉強会。同日 15時 30分-17時 30分ミーティング。</p> <p>◇7月19日 10-11時 専修大学学生生活課訪問。</p> <p>◇7月29日 16-17時 宮城県登米市役所訪問。</p> <p>◇8月20日 15-17時 全体ミーティング：</p>

	<p>これまでの訪問先の議事録の共有。「栄養とエイジング」国際会議における WG3 の要旨とスライドの変更案を 9 月 6 日までに再度差替えを出すことで合意。活動の目安とまとめの報告先に関して話し合い、国際会議の内容も踏まえて、「イルシー」誌への掲載を目指すということで合意された。</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。 ・11 月 8 日にミーティングの実施。「イルシー」誌 143 号に活動報告書掲載を目指すこと、そのためのワーキングを 2020 年 1 月～2 月に実施することを合意。
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容をまとめ、Nutr. Rev.への投稿論文を作成中。 ・11 月 8 日にミーティングを実施。「イルシー」誌 143 号への論文投稿に向け役割分担とスケジュールの確認を行った。